

令和元年度 長与町学校評価（共通の評価項目）報告書

長与町立（長与中）学校

1 共通項目

項目	重点目標及び取組内容	評価	分析（及び改善策）
心の豊かさ と自ら学ぶ力を育てる 学校教育の実現	1 豊かな心の育成 (1) いじめへの対応 ・サインに気づき、生徒理解とトラブル発見 ・未然防止、早期発見、早期対応	3.5	○いじめ対応については、毎月悩み調査を実施し、全職員で組織的かつ迅速に対応した。 ○毎週の生徒指導部会、特別支援部会で諸課題を共有し、対策を立てて組織的に対応した。 SSWや子ども政策課等、外部機関との連携も図った。 ●学校が楽しいと感じる生徒は、2学期にやや低下した。対人関係や生活状況から生徒の生活満足度が低下したと考えられ、個別対応の充実や他者を思いやる心の育成を図る。
	(2) 情報共有と迅速な組織対応	3.5	
	(3) 不登校への対応 ・個に応じたきめ細かな対応	3.2	
	(4) 通いたくなる学校 ・学校が楽しい（生徒アンケート）	3.4	
	2 基礎学力の充実 (1) 分かる授業の実施 ・分かる授業、できる授業のための授業改善	3.5	○校内研修や教材研修など、教師の授業改善への取組は熱心である。 ●家庭学習の習慣化や学習規律の低下については喫緊の課題として個別の学習指導等を行って取り組んだ。生徒・保護者とも家庭学習の習慣化に課題を感じており、3学期も重点項目として継続指導した。 ●CRT調査では、1・2年とも全教科、全国平均は上回っているが、見えた課題を各教科で改善指導している。
	(2) 家庭学習の習慣化に向けた指導	3.3	
	(3) 学習規律と学習習慣確立に向けた取組	3.5	
	3 健康安全教育の推進 (1) 心身の健康・安全についての指導	3.0	○家庭との連携と校内管理の徹底を行うことでアレルギー対応を確実に実施した。 ○様々な学習会を実施することで、安全管理への意識を向上させた。（メディア安全、DV防止、性教育、食育、ゴミ分別、薬物防止） ●集団への不適応や心身の悩みを持つ生徒が多く、別室対応や家庭訪問などの配慮事項が増加した。
	(2) 体育的行事や部活動による、たくましい生徒の育成	3.4	
	(3) 生徒の危機管理意識と自己防衛力の育成（アレルギー、SNS、薬物、DV等）	3.4	
	4 特別支援教育 (1) 一人ひとりのニーズに応じた支援 ・支援計画や理解支援シートの作成と活用	2.8	○特別支援部会を毎週実施し、情報共有と対策検討、指導方針の確認等を行った。 ●支援計画や理解支援シートについては、来年度さらに有効活用を図る。
	(2) 困り感のある生徒の状況共有と対策検討	3.2	
	(3) 困り感のある生徒への支援や言葉かけ	3.2	
	5 国際化への対応 (1) 日本人としてのアイデンティティの確立 ・日本の文化や地域の理解、協調性や人間性の育成	3.1	○総合的な学習の時間や道徳、平和・人権集会などで多様性や寛容性を高める学習を行った。 ●身に付けさせたい資質・能力や社会で生きて働く力などの将来的な視点を、共通理解して指導することで、効果を高める。
	(2) コミュニケーション能力の育成 ・他を認め、ともに高め合う意識や対話力の育成	3.2	
	(3) グローバルな視野と融和の精神 ・世界の情勢や人としての在り方についての考察 ・広い視野を持つことの大切さの考察	3.0	
	6 教育環境の整備 (1) HPやメールを活用した安全確保等の連絡	3.2	○登下校の安全確保のためのメール通信やHPの活用は有効であった。 ●電子黒板に加え、iPadの活用率について、さらに高めていく。学力向上に向けた活用のあり方について、今後も研究を深める。
	(2) タブレットや電子黒板等の学習機器の活用	3.1	
	(3) 日常の環境整備、資源のリサイクルへの心がけと生徒への指導	3.3	
	7 教職員の資質向上 (1) 指導力向上に向けた研修意識の高揚	3.4	○深い学びにつながる対話に関する研修に加え、ごみ分別研修などの現職教育についても、各職員積極的に参加した。 ○校務支援システムへの移行や業務改善への取組にも、全職員一丸で取り組むことができた。
(2) 服務規律の遵守と体罰やハラスメントの撲滅	3.7		
(3) 風通しの良い職員室づくり	3.5		

2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

（1）成果

- ① 共通理解と組織対応の充実による諸問題の早期解決と早期改善の実現
- ② 各種専門機関との連携による状況の改善や生活安全対策
- ③ 計画的な業務マネジメントや職員の連携による業務改善と校務支援システムへの効果的な移行による業務の効率化

（2）課題等

- ① 不登校生徒の教室復帰
登校に関しては、特別支援部会での対応共有とSC、SSW、こころの教室、いぶきなど様々な職員や施設等との連携である程度の成果を上げることができたが、対人的な不安を払拭できない生徒がおり、別室登校から教室への復帰に関しては継続的な手立てが必要となる。（要配慮生徒の支援）
- ② 個人差に応じた指導体制
課題の取組や学習意欲など個人差が大きく、個別指導を含めた意図的な指導が必要である。（個人差への対応）
- ③ 部活動ガイドラインに沿った年間活動の見直し
大会が集中することで、業務時間超過になる月がある。年間の大会のバランスや練習試合の計画的実施など、活動を見直す必要がある。
（ガイドラインの遵守と活動の見直し）
- ④ 規律心や協調性の育成
学習規律や集団行動に課題のある生徒の割合が高く、注意や指導を受け入れることができない生徒も見られる。規律心や協調性の大切さを生徒自身に気づかせ連帯感を育むために、来年度から宿泊学習を実施する。
（心の教育）

3 学校関係者評価

【部活動指導】

- ・ ガイドラインに沿った指導により、部活動の時間が短くなり、体力の低下が心配である。
- ・ 生徒の部活動に対するモチベーションの低下が気になる。
- ・ 部活動においては、活動時間の有効性を高めることや生徒自身の時間活用能力の育成が大切である。これからも部活動のあり方などの検証を進める必要がある。

【規律・礼儀】

- ・ 新入生の入学後に、宿泊学習を行うことはとても良いと思う。生徒が中学校生活のルールや集団生活の大切さを理解して学年の団結を深めることで、行事の意義が高まると思う。
- ・ 長与中学校の生徒は、気持ちの良い挨拶を行っている。これからも、生活の基本として挨拶はとても大切なことと位置付けて指導を行ってほしい。
- ・ 心を育むために、地域行事に生徒を参加させてほしい。
- ・ 家庭教育10カ条を普及させ、学校や家庭の生活に潤いを与えてほしい。

【学校生活について】

- ・ 登下校の様子は、楽しそうである。
- ・ 相手のことを考えた言葉遣いなど、言語環境を整えてほしい。
- ・ 学校では、生徒同士のいさかいや、意見が分かれることがあると思うが、素直に非を認めたり、相手の気持ちを思いやる気持ちを大切にしてほしい。

【学校評価について】

- ・ 学校評価の数値は、妥当である。

4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- 学校支援会議では、生徒の地域での様子として「挨拶をよくする」という言葉をいただいた。地域の方が優しく見守り、成長を喜んでくださる姿勢が、生徒たちの前向きな姿勢を引き出しているのだと感じた。生徒たちの成長を喜びとして教育活動を進めるとともに、生徒の良さを伸ばし、生徒自身が伸び伸びと活動していけるような言葉かけや指導姿勢を心がけ、生徒や保護者と強い信頼感で結びついた学校づくりに励みたい。
- 総合的な学習の時間や学級活動を含む特別活動、道徳といった指導の中で、協調性や規律心を重視した指導を実践し、集団活動の質を向上させていくことを重視する。
- 毎月の生活アンケートや教育相談など、生徒からのサインを集め、生徒の生活しやすい学習環境構築のために全力を尽くすとともに、指導の意図や教師の思いを生徒や保護者に丁寧に伝えていくことで、ミスや失敗から多くのことを学び、より良く成長していくような雰囲気作りを重視する。
また、あらゆる手段を講じて生徒理解に努めるとともに、教科指導同様、情報の共有と指導の統一性が保たれる組織づくりを行う。
- 働き方改革の推進を図るとともに、時間を有効に活動する部活動のあり方や生徒自身の時間活用術の向上など、生活を自ら豊かにして行くことのできる生徒の育成を図っていく。